

青年海外協力隊 OB 会会長賞
釧路町立富原中学校
3年 須貝 くるみ

民族理解と援助

国レベルだけでなく、NGO などを通じて援助活動が活発に行われている。金銭的なもの、物質、人出、教育などさまざまな形での支援がある。国際貢献の好例の一つといえる。しかしこれらはあくまでも「援助側」の見解にすぎないと私は思う。では、こういった支援はいままで十分だったのだろうか。文化や歴史や価値観の違う人たちが望むものを、ただ一方的に援助してきたことで、本来の民族性を奪ってはいないだろうか。便利、効率がよいという理由で先進国のやり方を強要しなかっただろうか。大切にしなければならない民族の誇りを傷つけてはいないだろうか。とそういった活動がTV や新聞で話題になるたびに考えてしまう。たしかに支援はとても大切だ。しかし私は最近、一方的な支援だけでは自己満足でしかないと思う。

小学校の時、私の学校では JICA の方々が年に一度学校にいらして私達の先生の授業をごらんになってそしておたがいに教え方や授業について交流していた。私はこの事を通して交流することの大切さを学んだ。ふだんはTV や新聞くらいでは一部のことしかわからないが、交流することによって相手の価値観や文化そして民族性もわかると思う。そして交流からは多くのことが学べる。先進国の考えはすべてではなくそうではない国々からも多くのことを学ぶことができる。その学んだことをおたがいに生かすことができればこんなに素晴らしいことはないと私は考える。そして学ぶために今中学生である私がしなくてはならないことは英語をしっかりと学ぶことである。私は英語が得意ではないが人と接することは好きなので話せないということはとてもつらくて悲しいことだ。なので悔いなくやりたい。そして将来的には必ず海外に出たい。そして様々な国に行ってその国その国の文化や歴史や考え方を学んでその良い所を取り入れる柔軟な考え方を持つ世界に通用する人になりたい。

(原文のまま)